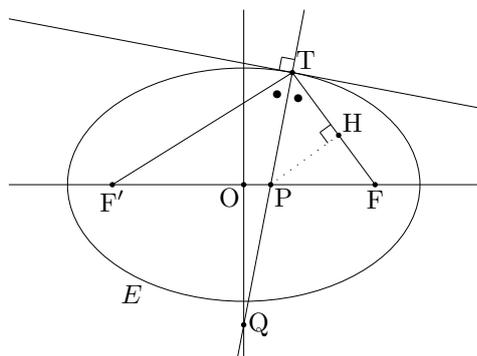


【13】 楕円 E の焦点を F, F' とする。 E の長軸と E の交点の内、 F に近い方を A , 他方を A' とする。 E の短軸と E の交点 B, B' を、 A, B, A', B' が反時計回りであるように決める。 E の中心を O とする。 $OA = a, OB = b$ とする。

E 上に点 T を、 A と異なり、 $TF' > TF$ を満たすように取る。 E の T における法線と E の長軸、短軸の交点をそれぞれ P, Q とする。

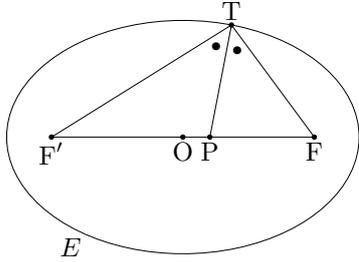
次の (1) ~ (4) を証明せよ。

- (1) $\frac{FT}{FP}$ は T の位置に依らない。
- (2) T, F', Q, F は共円点。
- (3) $\frac{PT}{PQ}$ は T の位置に依らない。
- (4) P から直線 TF に下ろした垂線の足を H とすると、 TH は T の位置に依らない。



[解答]

(1)

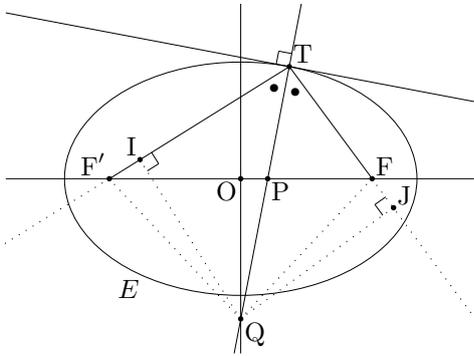


$$\frac{F'T}{F'P} = \frac{FT}{FP} \quad (\text{角の2等分線の定理})$$

$$\begin{aligned} \therefore \frac{FT}{FP} &= \frac{FT + F'T}{FP + F'P} \\ &= \frac{2a}{2\sqrt{a^2 - b^2}} \\ &= \frac{a}{\sqrt{a^2 - b^2}} \end{aligned}$$

故に $\frac{FT}{FP}$ は T の位置に依らない。

(2)



Q から直線 TF' , 直線 TF に下ろした垂線の足を I, J とする。

$T \ni B, B'$ より $I \ni F', J \ni F$

故に、 $QF' = QF, QI = QJ, \angle QIF' = \angle QJF' = 90^\circ$ より、 $\triangle QF'I \equiv \triangle QFJ$ (1 辺両端角相等) \dots ①

①より $F'I = FJ \dots$ ②

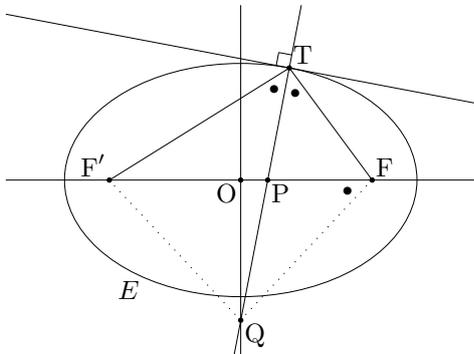
一方、 $\triangle QIT \equiv \triangle QJT$ (1 辺両端角相等) より $TI = TJ \dots$ ③

②, ③, $TF' > TF$ より、 I は TF' 上に有り、 J は TF の F の方の延長上に有る。

①より $\angle QF'I = \angle QFJ$

故に 4 点 F, T, F', Q は共円点。

(3)



(2) より $\angle FTQ = \angle F'TQ = \angle F'FQ$ (円周角)

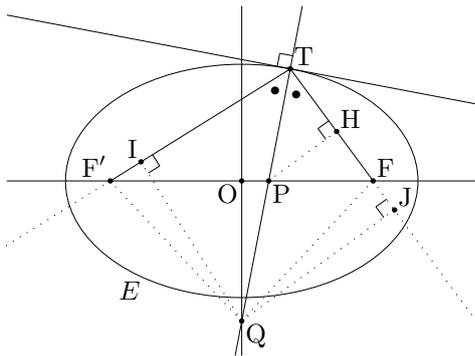
$\therefore \triangle FTQ \sim \triangle PFQ$ (2 角相等)

$$\therefore \frac{TQ}{PQ} = \frac{\triangle FTQ}{\triangle PFQ}$$

$$\begin{aligned}
&= \frac{FT^2}{PF^2} \\
&= \frac{a^2}{(\sqrt{a^2 - b^2})^2} \quad (\because (1)) \\
&= \frac{a^2}{a^2 - b^2} \\
\therefore \frac{PT}{PQ} &= \frac{a^2 - (a^2 - b^2)}{a^2 - b^2} \\
&= \frac{b^2}{a^2 - b^2}
\end{aligned}$$

これは T の位置に依らない。

(4)



$$\begin{aligned}
TJ &= \frac{1}{2}(TI + TJ) \quad (\because \textcircled{3}) \\
&= \frac{1}{2}(TF' + TF) \quad (\because \textcircled{2}) \\
&= a
\end{aligned}$$

$$(3) \text{ より } \frac{TP}{TQ} = \frac{b^2}{a^2}$$

$$\therefore TH = \frac{b^2}{a^2} \times a = \frac{b^2}{a}$$

これは T の位置に依らない。 ■

■研究 シムソンの定理の逆より、I, O, J は同一直線上に有る。